

(10)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-245767

(P2001-245767A)

(43)公開日 平成13年9月11日 (2001.9.11)

(51)IntCl'

A 47 G 9/02
A 44 B 18/00

識別記号

P I

A 47 G 9/02
A 44 B 18/00

チ-ヨ-ト[®] (参考)
H 8B100
3B102

審査請求 有 請求項の数1 OL (全4頁)

(21)出願番号

特願2000-59392 (P2000-59392)

(22)出願日

平成12年3月3日 (2000.3.3)

(71)出願人 593075988

徳田 富二郎

愛知県名古屋市守山区大庭敷11番3号

(72)発明者 徳田 富二郎

愛知県名古屋市守山区大庭敷11番3号

(74)代理人 100112531

弁理士 伊藤 清二

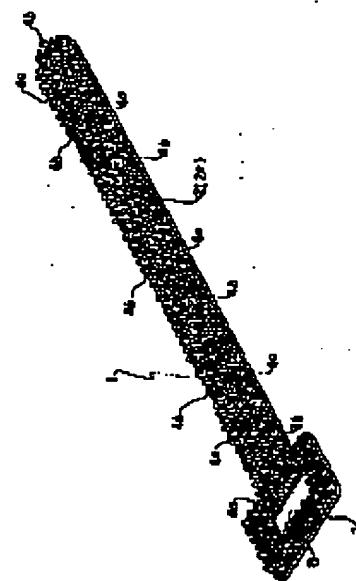
Fターム (参考) SB100 DA02 DA07 DB00
3B102 BA16

(54)【発明の名称】 ふとん止着用面ファスナーテープ

(57)【要約】

【説明】 通常使用されている肌ふとん及び掛けふとんを容易に重ね合わせて止着したり、分離したりできるようなふとん止着用面ファスナーテープを提供する。

【解決手段】 所要の長さを有する細幅状のテープ基材2の一側端に幅広部3を形成すると共に、該テープ基材2の表面に合成樹脂モノフィラメント製のフック4aとループ4bとを混在した状態に植設し、さらに前記テープ基材2の幅広部3に該テープ基材2の細幅部2aを通す押通孔5を穿設してなることを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 所要の長さを有する細幅状のテープ基材の一側端に幅広部を形成すると共に、該テープ基材の表面に合成樹脂モノフィラメント製のフックヒループとを混在した状態に植設し、さらに前記テープ基材の幅広部に該テープ基材の細幅部を遮す押通孔を穿設してなることを特徴とするふとん止着用面ファスナーテープ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、肌ふとんと掛ふとんとを重ね合わせた状態で容易に止着したり、分離したりすることができるふとん止着用面ファスナーテープに関するものである。

【0002】

【従来の技術】最近では、肌ふとんと掛ふとんとを重ね合わせて冬用掛ふとんとして使用することができるような重ね合わせ式ふとんが市販されていて人気を得ている。

【0003】ところで、このような従来の重ね合わせ式ふとんは、肌ふとんと掛ふとんとを重ね合わせた状態でスナップ止め、或いは一般に汎用されている面ファスナー止め等の止着手段により止着するようになっていた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】このため、従来の重ね合わせ式ふとんにあっては、肌ふとん及び掛ふとんのそれぞれ一側面であり、その周縁部分の複数箇所に相互に係合し得る凹凸スナップ頭、或いは一般的な面ファスナー等を止着して止着部を設けなければならぬため、製作に手間が掛かり必然的に高価にならざるを得ないという問題点を有していた。

【0005】本発明は上記のような問題点に鑑みてなされたもので、その目的とするところは、通常使用されている肌ふとんと掛ふとんとを容易に重ね合わせて止着したり、分離したりできるようなふとん止着用面ファスナーテープを提供するものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明に係るふとん止着用面ファスナーテープは、所要の長さを有する細幅状のテープ基材の一側端に幅広部を形成すると共に、該テープ基材の表面に合成樹脂モノフィラメント製のフックヒループとを混在した状態に植設し、さらに前記テープ基材の幅広部に該テープ基材の細幅部を遮す押通孔を穿設してなることを特徴としている。

【0007】このように構成されたふとん止着用面ファスナーテープは、肌ふとん及び掛ふとんのそれぞれ表面四隅部に設けられているふとんカバー止着用の布テープを利用して肌ふとんと掛ふとんとを容易に重ね合わせて止着したり、分離したりすることが可能となる。

【0008】

【発明の実施の形態】次に、本発明の実施の形態を図面を参照して説明する。図1は本発明に係るふとん止着用面ファスナーテープの斜視図である。このふとん止着用の面ファスナーテープ1は、所要の長さを有する細幅状のテープ基材2の一側端に幅広部3が形成されており、さらに幅広部3を含むテープ基材2の全表面に合成樹脂モノフィラメント製のフック4aとループ4bとが混在した状態に植設されている。そして、テープ基材2の幅広部3に該テープ基材2の細幅部2aを通す横長状の押通孔5を穿設して構成されている。なお、前記押通孔5は、該テープ基材2の細幅部2aを通し易くするためその細幅部2aの横幅寸法より若干大きく形成するのが好ましい。

【0009】しかして、このように構成された本発明の面ファスナーテープ1を使用して例えば掛ふとんの上に肌ふとんを重ね合わせて止着する場合には、先ず図2に示すようにテープ基材2の表面を下側にして該テープ基材2を掛ふとん6の表面と該掛ふとん6の表面四隅部にそれぞれ設けられている布テープ7との間に隙間に通した後、布テープ7を巻き込むようにして細幅部2aを押通孔5に通す。次に、この状態で図3に示すようにテープ基材2の表面を上に向けて該テープ基材2を肌ふとん8の表面と該肌ふとん8の表面四隅部にそれぞれ設けられている布テープ9との間に隙間に通した後、該布テープ9を巻き込むようにして折り曲げ、さらに図4に示すようにその折り曲げ部をテープ基材2の表面に張り合わせることにより掛ふとん6と肌ふとん8とを容易に重ね合わせて止着することができる。

【0010】

【発明の効果】以上説明したところから明らかのように、本発明のふとん止着用面ファスナーテープは、所要の長さを有する細幅状のテープ基材の一側端に幅広部を形成すると共に、該テープ基材の表面に合成樹脂モノフィラメント製のフックヒループとを混在した状態に植設し、さらに前記テープ基材の幅広部に該テープ基材の細幅部を遮す押通孔を穿設してなるものであるから、肌ふとん及び掛ふとんのそれぞれ表面四隅部に設けられているふとんカバー止着用の布テープを利用して肌ふとんと掛ふとんとを容易に重ね合わせて止着したり、分離したりすることができるので非常に便利なものとなる。

【0011】また、通常使用している肌ふとんと掛ふとんとを容易に重ね合わせて止着したり、分離したりすることができるので、市販されている重ね合わせ式ふとんを新たに購入しなくても済むため非常に経済的となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るふとん止着用面ファスナーテープの斜視図である。

【図2】掛ふとんの布テープに面ファスナーテープを取り付けた状態の斜視図である。

【図3】掛ふとんと肌ふとんとを重ね合わせて止着する

(3)

特開2001-245767

4

3

状態を説明する斜視図である。

【図4】指ふとんと肌ふとんとを重ね合わせて止着した
状態の要部断面図である。

【特号の説明】

1 ふとん止着用面ファスナーテープ

2 テープ基材

2 a

幅幅部

3

幅広部

4 a

フック

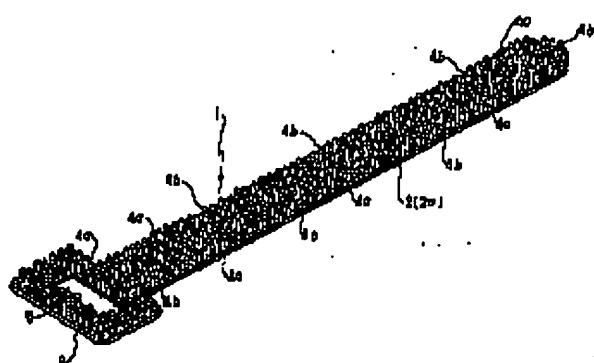
4 b

ループ

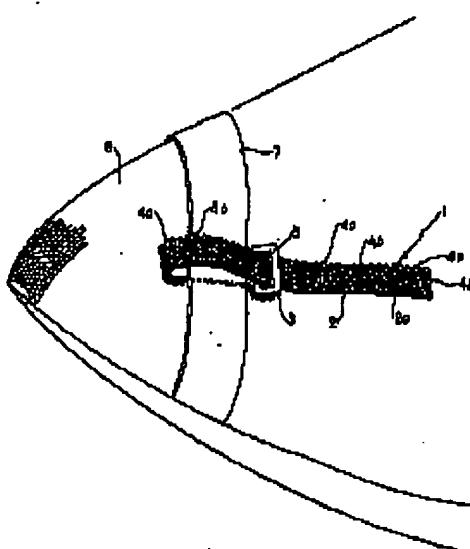
5

押通孔

【図1】



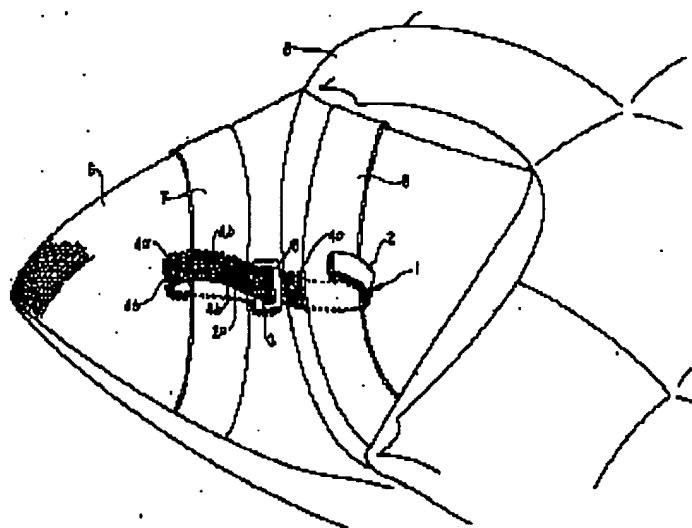
【図2】



(4)

特開2001-245767

【図3】



【図4】

